

# verde

「verde」とは、ポルトガル語で「緑の」という意味です。



ヘルシ箕輪

ベルジ株式会社 有料老人ホーム ベルジ箕輪  
発行責任者 専務取締役 大久保健司  
支配人 高木 正幸

〒370-3104 群馬県高崎市箕郷町上芝 839-4  
Tel 027-371-6610 / Fax 027-371-6613  
E-mail [minowa@e-verde.co.jp](mailto:minowa@e-verde.co.jp)  
URL <http://www.e-verde.co.jp>

ホームページにてブログも更新しております。そちらも是非ご覧ください

# 11月の出来事

若き頃のキラキラのドレスを纏った美空ひばりがテレビに映し出されると「ひばりちゃん！」と掛け声。伸びやかな美しい歌声が聞こえると、うっとり聞き入る方、拍手をし歓喜の声を上げる方、それぞれの楽しみ方で、美空ひばりコンサート鑑賞をいたしました。柔らかな太陽の日差しそそぐ午前の穏やかな時間、力強く、囁く、心に響く、美空ひばりの歌声が空間を浄化しているように見え、フィルター越しに見た皆さまの穏やかな表情に、神様はみたことがないですが、美空ひばりという人は神様だと思う、本物に会えた皆さまを羨ましく思った。

## 美空ひばり鑑賞



## 予防接種

インフルエンザの予防接種を行いました。注射は苦手と顔をしかめる方に看護師の方が「大丈夫ですよ」と優しく声をかける様子はよくある風景なのですが、ケロッと笑顔の皆さまに「痛くなかったですか？」と声をかけていたら「最近は皆様コロナで慣れているみたいですよ」と看護師様「そうなんですか」と皆さまの顔を見ると笑顔のピースサイン。慣れというのは凄いことだなと、しみじみ思う出来事でした。



## クリスマスの準備

寒くなり、底冷えする陽気「もうすぐクリスマスだね」「じゃあ、もう飾りますか」と、職員が折り紙でサンタクロースとサンタ帽のクマをあっという間に作り、クリスマスカラーのフラッグで壁をデコレーション。お部屋が華やかなクリスマスの雰囲気に変身。キラキラしたクリスマスの準備のアイデアがあれもこれもと湧いてきました。



# 焼き芋



別館では、上州空っ風が、びゅうーびゅうーと吹き曝す日、身体の芯から温まれるようアツアツの焼き芋パーティを開催。焼きたてのお芋を目の前にして「まだ熱いのもう少しです」「熱いのをホクホクしながら食べたいじゃない」と職員の心配と皆さまの攻防。「お待たせしました」と香ばしい香り漂うお芋をお渡しすると皆さまホクホク笑顔「美味しいね」今の時代は焼き芋を冷やして夏でもいただけますが、湯気の上がる黄金色のお芋は、冬に食べるのが最高。「良い香り」「ですね。」



# リハビリ

朝はラジオ体操の音楽と、体操へ向かう皆さまの挨拶するお声で賑やかになります。お茶を飲み休憩をはさんだ後、リハビリがスタートします。午前の太陽の眩い日差しが皆さまを応援していました。“がんばって”リハビリはご本人の頑張る気持ち大切です。機能訓練指導員はやる気を引き出すのもプロ。辛くて顔を顰めていたのに、皆さまを笑顔に変える魔法を使います。「冬なので髪長めにしてるんですよ」太陽の光に照らされた、スッキリした頭部を撫でながら言いました。笑いのチカラって本当にすごい魔法なのです。



# イベント

クリスマスが近いので、迷いに迷って濃いピンク色の「オペラ」という鉢を購入。施設に飾り、ふと育て方のタグをみると、売り上げの一部を日本乳がんピンクリボン運動に寄付されます。と記載されていました。知らず知らずのうちの社会貢献、なんだか嬉しくなりました。

お客様をお迎えする箕輪のメダカ。ご

来所の際には小さなメダカを覗き見つけてみてください。小さくとも健気に泳ぐ姿に癒されます。



# 就任のご挨拶

御利用者様、ご家族様におかれましては日頃よりご理解ご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。令和6年12月1日付けで専務取締役役に就任いたしました大久保と申します。私は今日まで当法人のベルジ武尊、渋川市にある3施設の運営を統括し、介護現場のスタッフと共にご利用者様の暮らしをサポートさせていただきました。これからもご利用者様の“想い”を尊重し、個別ケアとしての自律支援を大切に、当法人の理念でもある『常にありがたいの気持ちを忘れずに、仕事にやりがいを持ち、一步下がって二歩前進の精神』を念頭に、ご利用者様ならびにご家族様の笑顔がより多くみられ、またベルジを利用してよかったと言って頂けるよう、ケアスタッフ一人ひとりがご入居者様の心に寄り添い、まごころ込めた介護サービスの提供ができる環境を目指し、スタッフ一丸となり務めさせていただきます。



今後とも、ご支援ご協力の程お願い申し上げます。一層のご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ベルジ株式会社  
専務取締役 大久保健司

## 編集後記

2024年最後の「みのわだより」に何を書いたら…と考えあぐねています。年度末というのは今年の総決算といった気持ちになるので、終わりよければすべてよし。または、最後に捲り上げるといった調子で気分上昇、やり遂げた感情で今年を締めたいという思いに駆られます。言葉にはチカラがあり、どうせ、どうせと自分を嘆いているとその通りに未来は引き寄せられてしまうそうです。

「言ったもん勝ち」という言葉がありますが、願いは言葉にしていった方が叶いやすいというのは、神様に届きやすくなるということもありますが、自分の意識の中に刷り込まれるからとか。潜在意識の中でキチンと描くことで行動がついてくるのだそうです。忙しい日々の中で、自分の存在意義や成すべきことを考える時間など忘れてしまう事が多いと思います。多くの人は、一日をキチンと過ごすことに懸命で気が付けば終わっているのではないのでしょうか。月を眺め、そんな時に思いを巡らし、叶えたい事、掴みたい夢、成りたい未来。自分の姿を想像し、潜在意識に刷り込む。12月はパワー溢れる新月が2回も訪れます。一年の総決算、悔んだ日々も、失敗した出来事も、全部自分の肥しだったと思えるのだと、自分の願いを大きな声でいうこともお勧めします。私の願いは「生きとし生けるものは皆平等、野良犬猫に安住の住み家を」です。